

2018年 浴衣着付 競技要項

NO1

(1)課題の内容

浴衣の着付(半幅帯使用)、及びセット、メイクを行う。

帯結びは自由とする。

(浴衣にふさわしい着付、セット、メイクをすること)

(2)競技の方法

①セット・メイクの競技、浴衣着付までの競技、帯結びの競技に分けて行う。

②審査はヘア&メイク&着付のトータルで採点される。

③モデルは人体とし、プロ・素人は問わない。

④ベーシックな浴衣着付をベースとするが、華美にならない程度の創作的アレンジ、飾りは認める(チュール・レース使用可)

⑤ペアで参加も可。(3人は不可)

(競技中の ペアでの同時施術不可)

(ヘア・メイク時は1人ずつしか競技スペースに入れない)

(着付室には着付の選手のみしか入れない)

(3)競技時間

控室にてヘアー・メイク…40分間、浴衣着付…10分間

競技ステージにて帯結び…10分間(2人施術可)

合計 60分間

(4)競技用具の準備(選手が準備するもの)

①浴衣

②半幅帯

③履物

④ヘア用具一式

⑤化粧品一式

⑥衣裳敷き(120cm x 180cm 以内)

⑦衣装箱(通常の衣装箱及びそれに準ずる箱。

プラスチックの衣裳ケースや手さげ型の衣裳ケースは除く

※必ず持参し、縦 44 cm×横64cm×高さ18cm以内とする)

⑧小物付属品

肌襦袢、裾よけ(もしくはワンピース型の肌襦袢)

腰紐(3~4本)・クリップ類・伊達巻き1本(着物用裁縫用具一式)

⑨ボディ補正用具、変結び用のひも

帯あげ、帯締め、帯板は必要に応じて用意(使用可)

(5) 禁止事項

① 競技中に選手同士またはモデル、観客と会話等をしてはならない。

またアドバイスも受けてはならない。

② 競技中道具の貸し借りをしてはならない。

③ 競技中、他の選手に迷惑をかけるような言動、及び監視員の指示に従わない等の行為は禁止とする。

④ かつらの使用は認めない。

⑤ ものさし、メジャーの使用は認めない。

⑥ ブラジャー(和装用も含む)の使用は認めない。

⑦ 極端に完成されたボディ補正道具の使用は認めない。

ボディ補正のパットやタオルはとじ付けてあってはいけない。

帯や着物などに糸印をつけておくことは認めない。

特に浴衣なので、過度な補正はしない。

⑧ モデルが、ひも、伊達巻、帯などを結ぶことは認めない。(ただし、ひも、帯あげなどを、腕にかけたり、手に持つことは差し支えない。)

⑨ モデルが、袖、衿元、裾などを修正すること、衿合わせを押さえることは認めない。(ただし、たもとを持ち上げることは差し支えない。)

⑩ 帯に形付けをしたり、帯結びの課程につながる過度のたたみ方は認めない。

⑪ 袖の垂用の板紙使用は、撮影時は良いが、競技の際の使用は認めない。

- ⑫競技終了後、選手はモデルに一切触れてはならない。
- ⑬助手の使用は一切認めない。
- ⑭衿芯の使用は認めない。
- ⑮クリップを留めるための、ポーチや腰用のエプロンの使用は認めるが、スタート前にそれらにクリップを留めることは認めない。(スタート後はOK)
- ⑯まつ毛エクステは禁止とする。
- ⑰モデルがセットのブラシ・ピンなどを選手に渡すこと、メイクのブラシ・筆などを選手に渡すことは禁止とする。
- ⑱競技中に2人以上選手が、モデルに施術または触れることは禁止とする。
- ⑲セット・メイク・着付はそれぞれ各1人が全ての施術をすること。

(6) 制限事項

- ①選手の服装は上衣は白のブラウス、下は黒のスカートまたはスラックス、またはキュロットとする。(ただし、肌の露出の多いもの、または膝上のものは禁止する)帽子、スカーフ、ショール等は禁止とする。
- ②控室、競技会場に電源の設備はありません。アミカラー等は事前に巻いて控室に入場し、競技開始までに外しておく。
(メイクは下地クリームもしくはファンデーションから始めてもらいます。化粧水・乳液はつけておいてOK)
- ③ヘアピース・アクセサリーの使用は良い。ただし、ヘアピースの個数は1個とし、頭部の1/3以上を覆ってはならない。
- ④モデル自身による化粧施術は、競技中はもとより、控え室でも禁止する。
(アイテープ及びつけまつ毛を事前につけてきたり競技中にモデルがつけることも認めない。)

(7) 衣裳類の禁止事項

- 1 浴衣
 - ①身幅にアールをつけて胴部を絞った仕立ては認めない。
 - ②おはしより紙は使用禁止とする。
- 2 帯
 - ①ひだの折り癖がつけられているものは認めない。

3 小物 ①コーリンベルトの使用は認めない。

(8) その他の注意事項

- ①履物を履いて審査を行い、審査中のモデルは、両手を軽く広げ、おはしよりが隠れないポーズをとる。(履物を履かせて、ポーズ付けまでが、タイムとする)
- ②アイロンはできない。(控室、会場の電源は使用不可)
- ③競技用具は、大会当日の朝、競技が始まる前に、監視委員が厳重に点検を行う。
- ④衿とじは、事前にやってくること。
- ⑤タイムを計るためのタイマー、時計、携帯等は音の出ない物に限る。
- ⑥競技中に選手が時計、ブレスレット、指輪は身につけてはいけない。
- ⑦控室にはモデル及び出場者本人以外の立入りを禁止する。
- ⑧忘れものの申告は監視委員を通すこと。
- ⑨補正及びメイクに使うタオルも白に限る。

